

第4回 柳瀬川・空堀川流域連絡会(第5期)

全 体 会

議 事 録

日時：平成 21 年 12 月 2 日

於：北多摩北部建設事務所 2階会議室



[開 会]

○事務局 定刻になりましたので、これより第4回柳瀬川空堀川流域連絡会を開催します。進行役を担当します事務局の〇〇です。よろしくお願いします。

それでは座長の工事第二課長より御挨拶を申し上げます。

○座長 私は、今年の7月16日付けで北北建の工事第二課長になりました〇〇です。一度現地調査に参りました。私が柳瀬川、空堀川に係わりを持ったのは昭和60年に都庁の河川部で1年間、柳瀬川、空堀川等の河川の担当の時でした。その時、柳瀬川と空堀川の合流点の事業について地元や埼玉県との調整等の準備を行いました。その後は道路関係や再開発の仕事を行い、一昨年から土砂災害の関係の仕事を行って来ました。それは多摩の山奥や伊豆七島で行って来ました。

この柳瀬川、空堀川については23年前に関わり、今こうして流域連絡会の座長をやらせて頂き、何か非常に縁があるのかなと思っております。昭和60年当時の空堀川というと丸山橋付近で毎年水害が起きているということで、治水事業、河道整備を進めなければいけないということで下流からどんどん行ってきたわけです。上流では上砂神明等の調節池を作るなど水害に対応してきたわけです。整備したところは最近では水害がほとんど起きていない。それは、皆様の御協力があって整備が進められたと思っております。水害がなくなってこれだけの河川空間があるわけですので、皆様方は毎日散策などで見られていると思いますが、これからはより良い川を作って、皆様方に愛される川として整備しなければならぬと思っております。この連絡会を良い議論の場、意見交換の場としてより良い川を作って行きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局 それでは、続きまして副座長の〇〇委員、御挨拶をお願いいたします。

○副座長 皆さんこんにちは。流域連絡会は、皆様の御協力いただき成果をあげてきていると、私は思います。掲示板を作ったり、流域の散策マップを作ったりしたのも流連の大きな成果だと思っています。このような成果を含めて今期あと2年あるのですが、今期の委員と何とか新しい成果を残して行きたいと思っています。よろしくお願いいたします。

もう一つは、座長の挨拶にもあったのですが、いい川づくりのためにみんなと川づくりの成果を残していきたい。先日事務所と話をさせていただき、今回は空堀川の将来のイメージをどんな川になるのだろうか、整備計画の中に上流、中流、下流の断面が示され洪水流量を流してどうなるということは書いてあるが、護岸がどうなる、水があるのかないのか、河川管理用通路の植栽はどうするのかなどは示されていない。色々なイメージを考えて、流域連絡会でこんな川にしたいということを議論したいと考えています。どうぞご協力の程、よろしくお願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。ここでお手元の配布資料について確認させていただきます。座席表が封筒の上にあります。それから配布資料一覧表というのがあります。資料番号1番は次第です。2番は名簿です。

名簿ですが、No. 23の東大和市の〇〇委員は、10月1日付けで〇〇委員の異動により変更になりました。No. 31の北多摩北部建設事務所工事第二課長の〇〇ですが、先ほど挨拶にありましたように変更になっています。

3番が座席表です。4番は第2回議事要旨、5番は第3回議事要旨、6番は現地調査の際に頂いたアンケート結果、7番は現地調査で気が付いたことを地図にメモを書いていたものです。図中の文字に波線の枠で囲んであるのが今回の現地調査でメモしていただいたものです。黄色い枠で示してあるのが第4期流連であげられた意見です。8番は分科会構成委員（案）で今後行う分科会の事務局の案として示したものです。9番が今後の流域連絡会の活動予定案で、事務局の案です。後ほど議論していただければと思います。10番は柳瀬川の落差工の改良についてで、A3の資料です。あと、先ほど配布した「暮らしの中の水辺」の資料です。以上、配布資料を確認させていただきましたので、座長よろしく願いいたします。

○座長 それでは資料1の次第にしたがい始めたいと思います。第1回議事録にも示されているように第1回全体会では委員の皆様に参加動機とやっていきたいことを伺いました。現地調査に参加していただいたと思いますが、こういう会議に今回初めて参加していただいた委員の方に自己紹介と動機等を簡単をお願いします。〇〇委員、お願いします。

○都民委員 清瀬市から来ました〇〇と申します。この会に入って3年になります。私がこの会に入った動機は、すごく単純で川には水が流れていなければいけない。空堀川には水がないので環境を考えても全く意味がない。川を作るためには先ず水を流すことが大切である。ということに一切の想いがつながつているわけです。何故そういうことになったかというと、清瀬市のせせらぎ公園を作る時に私が座長を務めていました。行政、学校、地域住民の3者が協力して作りました。できあがって水の流れることによって環境がまったく変わってしまう。住民達の感想は素晴らしい環境になった、こんな良い住宅地になって良かったということでした。こういう目で空堀川を見ると、水がなくなる時期になると、ヘドロが乾き悪臭を放ち、草が生え花粉が飛んでくるといった環境にとって極めて良くない状況である。そんなことで是非空堀川に粘土張りでも何でのよいのでいつでも水が流れる川にしていきたい。〇〇課長の頃、それは良いと賛成していただいたのですが、それから進んでいないという状況です。3年も同じことを言わなければならない。是非この会で水の流れる川にさせていただきたいということで、皆さん御協力下さい。よろしく願いいたします。

○座長 どうもありがとうございます。引き続き〇〇委員、お願いいたします。

○都民委員 清瀬市からきました〇〇です。私は空堀川と柳瀬川の合流点地点に住んでいます。下流の方の一部工事が進んで、落差工の工事を行っています。これまで3回、会に参加させていただきました。今後、合流地点について具体化してくると思います。どういう風にするのか、是非皆さんのお知恵を拝借させていただき、良い川を作っていきたいと思って参加しました。よろしくお願いします。

○座長 ありがとうございます。それでは〇〇委員、お願いいたします。

○団体委員 私は、子供の頃、川はごく自然にあり、清瀬でも川から離れて住んでおり、何か行事がある時に川と係わってきました。川を作ることは行政や地域の人がすると思っており、人ごとのように思っていました。団体として今、川づくりに係わっていますが、〇〇委員にお任せという感じでよそごとのように思っていました。私自身が緑に深く係わってきたうちに、川の存在がとても大きいと感じてきて、団体として昨年は余り参加していなかったが、今年は川づくりに積極的に係わって行きたいと思い参加しました。私は空堀川を通して歩いたことはなく、今回初めて見させていただきました。工事が進んで来ており、昔のイメージと違うと思いい、何をしたいかまだわからないのですが、河畔林の問題、土手等の野草に関するのをやりたいと思っているのが今の現状です。

もう少し深く係わっていくと、川づくりに関する意見も出てくると思いますが、今は皆様のお話をただなるほどと感じています。よろしくお願いします。

○座長 続きまして、〇〇委員お願いします。

○都民委員 東大和市から来ました〇〇です。たまたま東京都で行った講座に参加し、修了レポートで東大和市に多くの方が訪れるには川づくりも大切だということを書きましたら、清瀬市の〇〇委員や東村山市の〇〇委員よりこの会には是非参加して欲しいとお誘いを受け、参加させていただきました。東大和市には立派な里山があるのですが、里山と川との係わり、川には水が一杯流れ、絶滅危惧種が棲み、草花が色々生育し、魚がたくさん棲んでいる川づくりはどうしたらいいのかなということを考えております。よろしくお願いします。

○座長 よろしいですか。それでは、次第にそって進めます。次第1の「これまでの経緯とアンケート結果について」、資料がたくさんあるので事務局から説明して下さい。

○事務局 お手元の資料の4、5番の資料は、第2回、第3回の現地調査の議事要旨です。第2回は7月30日午後、曇りで、下流区間の埼玉県境の柳瀬川清柳橋から空堀川第三天王橋まで見ました。踏査した時の写真を入れてあります。第3回は12月2日、上流区間の第二天王橋から上流、一級河川終点まで踏査しました。当日

は小雨でした。第2回と同様に写真が入っています。思い出しながら見ていただければと思います。

現地調査の際に皆さんにアンケートをしました。その結果を整理したのが資料6です。皆さんの意見は全て載せています。アンケートの意見が多岐に渡っていることから治水と環境に分けて整理してあります。A治水は工事、調節池、河積の確保、その他の4つに、B環境は水量・水質、植物、水生生物、旧川整備、その他の5つに細分して整理しました。1頁は第2回のアンケートの結果です。A治水としては、工事関係では青柳橋付近の拡幅工事は治水上の問題があるのではないか、その他では、ゲリラ豪雨について、最近では清瀬では曇りでも所沢で集中豪雨があり、あつという間に水位が上昇するので何か注意を促す方法はないかということなどがあります。B環境としては、水量・水質では水量の問題で空堀川の水量を確保したいという意見がほとんどでした。植物では、金山調節池付近下流左岸の河畔林がすばらしい。あと、管理用通路が日陰になるような枝の張る樹木が欲しい、河原に繁茂する外来植物の対応について必要だろう、草刈り、落差工についてなどの意見がありました。植物について色々これから議論したいという意見が多かったです。水生生物では、魚が落差工により遡上できないという意見がありました。旧川整備ではせせらぎ水路かと思いますが歩道が整備されたのがすばらしいという意見がありました。その他では、川の現状を見ることができ大変有意義であった、金山橋下の川原はインターネット等で紹介され、多くの人が訪れるのはよいが、ゴミの投棄や子供が川に入っているので事故が起きないか心配であるという意見がありました。

次に柳瀬川、空堀川でどのような活動をしているかについてですが、自然保護レンジャーとして監視、清掃、アユの遡上調査等があります。

3番として流域連絡会でどのような課題について取り組みたいかについては、治水関係はなく、環境として空堀川の流量確保、外来植物の対策を定期的に行う、河川通路の樹木の整備、魚ののぼりやすい川づくり、流域の動植物の四季生態地図の作成などの意見がありました。

7頁になりますが、第3回では、「本日の調査を終えて、空堀川上流についての感想」の設問ですが、東大和市内の工事箇所は、最も蛇行が大きい地点であり、標高差も大きく起伏に富んでいる所を直線化することは不自然であり、見直しをしたらどうかという感想がありました。

流域全体で洪水を防止するという総合治水が生きていないのでは、河川に接する公園などで緑地保全による保水能力アップや雨水貯留浸透の重要であるという感想、武蔵村山市の市民委員が一人もいないこと、上流から下流まで共通した情報と認識を持って、課題を共有化したいとの感想等がありました。

希望する分科会と取り組み内容についてという設問があり、お一人の方しか意見が出ていなかったのですが、その中で、東芝中橋下流の直線化工事について見直しが望ましい。できないとしたら、旧川と新川の2way方式を検討したいというご意見がありました。2way方式は、新しい川と古い川の両方を活かすような整備できないかという意見です。この方は、河川環境分科会を希望するとのことでした。

続きまして資料7番、これは川を歩いた時に、お配りした地図に気が付いたことをメモしていただいたものです。最初の頁は柳瀬川清柳橋の所ですが、清柳橋の外装が悪いとか、ビオトープ公園を見学したが、市民に知られていない等の意見があった。次に金山調節池の下流ですが、落差工の工事を色々したのですが、土や石を入れたことにより子供が川に入れなくなった、渡るのに危険ではないか等のお意見がありました。また、落差工によりアユが上れない、工事をする際の看板をわかりやすくしてほしいという意見がありました。金山調節池では、外来植物の駆除の意見がありました。

次の頁では、落差工が連続しているところですが、落差工の落差が小さく、魚も上れるという意見や川に自転車が投棄されているなどがあります。

次に柳瀬川と空堀川の合流点付近ですが、今工事をしており、今後合流点の形状が変わってくるので、旧川と新川の水の流し方によって、色々環境が変わってくるのでどうするのかという意見があります。

次に空堀川の武蔵野線の所ですが、JRの地下水が2,000トン/日流入しているというご説明がありました。

駆け足で資料の説明をしてしまいましたが、以上です。

○座長 どうもありがとうございました。それでは、第2回、第3回の現地調査の資料で何か、ご意見、質問等がありましたらお願いいたします。

○都民委員 資料6について、治水について意見がなかったという説明がありましたが、治水に対する意見がないのは、治水は都が行うという前提で、その他の意見を出しているのが当然です。意見がなかったからと言って治水に力を入れなくても良いということではないです。治水について意見がないのはあくまでも治水が行われている前提があると私は理解しています。

○座長 ありがとうございます。他に何かありますでしょうか。

○団体委員 資料4、p3キツネノカミソリの写真の標題の「旧川」を「旧川跡地」に修正して下さい。

○団体委員 資料7の空堀川御成橋の流入水量2000t/日は、私が現地で話したことです。市の委託調査資料をみると600t/日と少なく書かれている。季節、日、時間により異なる。

○座長 市の調査は年月日等がはいつてましたか。

○団体委員 入っていました。後日で連絡します。

○座長 地下水ですので変動があると思います。

- 団体委員 資料6にA、Bに区分されていますが、分科会を治水と環境にするのですか
- 事務局 資料6の区分は分科会とは関係なく、アンケートの結果を分けたもので、治水、利水、環境のうち、利水はないことから治水、環境にしました。
- 座長 アンケートの結果をみると、〇〇委員が先ほどお話があったように、治水は前提であるから意見が少なく、皆さんの関心は環境であることがわかります。治水は基本的には行政がするもので、治水と環境を兼ね備えていい川づくり、まちづくりができると思います。
アンケートで言えなかったことでもよろしいので何かありますか。
- 都民委員 柳瀬川と空堀川の合流地点のことです。合流点を空堀川の上流に移すのですが、埼玉県側が柳瀬川の水を旧川に流したい。新川の方に流したくないという意見が出てきている。合流地点の橋の掛け替えなど色々やってきた。我々東京都側は新川に水が流れることにより居住環境が良くなる。空堀川の少ない水が豊かになると思っているのですが、工事が始まると埼玉県側からそういう意見が出てきたのですが、その後どのようにになっているか、情報があったら教えてください。
- 団体委員 柳瀬川は合流地点から淵の森の約1kmは天然の護岸でエノキ、ムキノキなどの河畔林が非常に豊かで、河川が蛇行して願ってもない河川環境です。その環境を残した場合、水を流さないと全く違う環境になってしまう。今と同じ水量を流してその環境を守って欲しい。清瀬の市民団体もみんな同じ意見です。
- 座長 今の件で事務局の方で何かありますか。
- 事務局 設計係長をしています〇〇と申します。柳瀬川と空堀川の合流点の工事を今、進めております。資料7の図面を見て下さい。合流点を空堀川の石田橋とくるまや橋の間で合流させ、新柳瀬川とします。〇〇委員から現在、空堀川の水量が少ないことから、新柳瀬川の水量を期待していること、〇〇委員から現在の柳瀬川の環境を守って欲しいという意見がありました。水の分配は非常に難しいと思いますが、将来埼玉県が管理する区域です。柳瀬川は東京都と埼玉県が入り交じった川で、工事と維持管理、河川環境が懸案になっている所です。H18年度に流域連絡会とは別の懇談会が活動しており、第一段階は終わっているのですが、将来の水の分配や現柳瀬川の環境については来年度第2段階の懇談会を催したいと考えています。地元の市、埼玉県、市民に入っていただきます。
- 座長 どうもありがとうございました。

- 団体委員　それに関連してですが、水の分配について、当初、洪水等でオーバーフローする水を新川に流すと聞いていた。その辺もこれからの話しですか。
- 事務局　埼玉県と調整している内容としては、現在の平常時の水量は確保したいという話は聞いています。ただ、正常流量がどのくらいで、将来の予測を含めて今の川の方へどのくらい流すかを決めていかないと新川、旧川の環境が悪くなります。埼玉県でも調査を続けて行い、東京都でも技術検討をしています。河床に高低差があり、〇〇委員が言ったように洪水時にオーバーフローする水を新川に流し、正常時には旧川を主体に流すのがよいかなと思っています。
- 団体委員　模型実験はやりましたか。
- 事務局　模型実験はやっていません。前提のなる量の配分を決めて、その構造が本当にできるのかについてモデル式で検討しなければいけないと考えています。
- 都民委員　当時の懇談会では清瀬、所沢が出席して、一定の枿の水は旧川に、枿をオーバーフローする水は新川に流すことで合意しました。この合意に基づき、新川を作る場所の人は移転させられたのだから水を流さないとなると問題であると思います。
- 団体委員　これは懇談会が継続して検討していくとのことで、合意はされていたのですか。
- 事務局　現在の境橋より下流の区間について工事を合意したのです。境橋より上流については次の段階で検討することになっています。
- 団体委員　今後の懇談会で検討すると言うことですが、懇談会はもうできているのですか。
- 事務局　来年度を考えており、埼玉県と協議しています。
- 都民委員　合意したという誤解が生じるので良くない表現です。こういう計画ができましたという印刷物について、こういう表現でいくということについて合意したものです。工事等について決定しているというものではないです。
- 団体委員　差し当たって22年度まで工事をする箇所、それから柳瀬川と空堀川が合流する地点は何年度以降に工事をするというのでひとまず矢板を打っています。法面を入れて約6,000m²弱と大きな旧川となるのですが、そこをどうするかについてはこれから検討することでこの流域連絡会でも意見が出ると思います。
- 団体委員　懇談会を作って検討すると言うことですが、流連との関係はどうなのですか。

- 団体委員 別の会です。
- 事務局 流連の皆さんの意見は聞いて、参考にしたいと考えております。
- 都民委員 この流域連絡会は、単に地域の人意見を伺うということで、権限はないです。最終的には東京都と埼玉県が協議して決定することであり、この会は意見を言いこういう風にして欲しいことを伝える会であると思います。
- 座長 この会の要綱に示してありますように、情報や意見交換及び提案を行うことを目的としているので、会としての提案をすることになります。
- 都民委員 資料4、5ですが資料4は晴れた日、資料5は雨の降った後ですが、水量の差が大きい。先ほど粘土張りをして地下浸透しなくする話がありましたが、溜まった水の行き先ですが、流れてしまう分と地下に浸透する分の割合はわかっていますか。
- 事務局 今、地下水については研究期間に協力していただき調査をしている。広範囲に及び、各地点により地質も異なるので、地下の状況をなかなかつかみづらい。どこまで行くと水が湧くなどの把握はまだつかめていません。調査については引き続きやっていきたいと思っています。合流点の工事が終わった後、河床をもう少し下げていかなければならない。その際に河床の粘土張りが有効であれば考えていかなければならないと思っています。
- 都民委員 流れていく水が9で、浸透する水が1でほとんどが流れてしまうと思います。せつかく降った雨水を少しでも貯めて流すことはできないかということを検討したことがありますか。
- 座長 私もこの数ヶ月空堀川の状況を見てきたのですが、河床に所々水が溜まっているが、水は腐らないので水が動いていると思われれます。また、数mmの降雨があった時、この程度の雨では水量が増えないのかなと思っていたが、水量が増える。点在していた水たまりがつながっている。こういう現象を見ると、溜まっている水は地下では動いていると思われれました。溜まっている水は動いているからきれいであると思います。炎天下の中でも水がなくならないのは伏流水ような水により水が入れ替わっているように思われれます。
- 都民委員 堰とかで溜まり水を作るような検討をこれまでしたことがありますか。
- 座長 そういう検討はないです。

- 事務局 空堀川を歩くとそうでもないが、かなり勾配はきついです。雨が降るとかなり流速が早く、洪水量もかなりの量が流れています。土砂の流出も多く、堰等で溜まり水を作ることは難しいです。
- 都民委員 砂防ダムみたいなものを作ると水が溜まるのではないかと思います。
- 団体委員 空堀川の勾配は1/200です。全国の河川の中で1/200というところかなり勾配のきつい川に入る。都内では1、2番の急流の河川である。特別な対策をとらないと水は流れても直ぐになくなってしまいます。勾配が非常にきついということも考えて検討しないといけないと思う。
- 座長 河川勾配の資料については追々出していきます。
- 都民委員 粘土張りだけでは、水は溜まらないと思います。別のことも考えなくてはいけないと思う。
- 座長 まだ他にもご意見があるかと思いますが、「これまでの経緯とアンケート結果について」はここで閉めさせていただき、「分科会について」に移りたいと思います。事務局の方から提案ということで説明をお願いします。
- 事務局 資料8 分科会(案)について説明します。始めに資料の「分科会構成委員(案)」に間違いがありまして、武蔵村山市の〇〇委員は河川環境分科会の希望がありましたが、抜けておりますので訂正します。
- これは事務局が案として作成したもので、第一回流域連絡会の時に分科会形式で行ったらどうかということで提案し、大方の方によろしいのではないかとということでした。第4期の時に水循環と河川環境の2つの分科会であったので、これらを踏襲してこのように分けたいかがかという案です。行政委員は職を考慮して水循環と河川環境に分けさせていただきました。「分科会構成委員(案)」の表に分科会名が示してあるのは、アンケート等で意志を示していただいたものを入れています。空欄の方は今日決めていただいて、どちらかに所属していただければと思います。
- 名称、まとめ役、どういうメンバーで行っていくかを含め、皆さんで所属を決めていただき分科会を行っていただければという提案です。
- 座長 わかりました。では、先ず、最初に分科会形式で行うのでよろしいですか。
- 全員 よろしいです。
- 座長 次に2つの分科会で行うのでよろしいですか。ここでは、第4期と同じ2つの分科会としています。

- 団体委員 どうい内容で2つの分科会をするのか。4期と同じ内容であるのか、あるいは、少し内容を変えるか、あるいは別の分科会を作るのか、状況が色々変化しているののでしっかり考えた方が良いのではと思います。私の提案は、空堀川が4市に流れており、地域により考え方、関心度が違うので、工事が完了した区域、工事が進められている区域、まだ工事まで何年かある区域で分ける方法や上、中、下流に分けて行う方法もあると思います。特に、東大和市は工事が進行中でありますので、工事の内容により、どういう川になるのか関心があり、市民も感心が高いのでそういう分科会が良いと思っています。皆さんの意見を伺い、この流連として良い形になればと思います。意見交換した内容が形になればいいです。ただまとめただけではしかたがないと思います。
- 団体委員 4期の河川環境分科会、水循環分科会はどういうことをしてきたのか説明が欲しいです。
- 座長 それぞれで受け止め方が違うと思いますので、事務局で考えているそれぞれの分科会について説明して下さい。
- 事務局 第1回の流域連絡会で配布しました第4期流域連絡会の活動記録というA3両面カラー印刷の資料があります。その中で、水循環分科会では空堀川は水涸れが起きているので水量を確保したいというのが大きなテーマでした。それにはどのような方策があるかについて検討しました。
- 河川環境分科会は、何回か河川を踏査し、河川の現状を把握し、問題点を抽出しました。主に話をしたのは樹木の植栽です。
- 第4期の分科会では十分に検討できなかった事項は、第5期流域連絡会への引き継ぎ事項としてまとめられています。引き継ぎ事項は6つあり、読み上げると①水量確保対策（河床張りの必要性と構造の検討、雨水貯留施設の問題点と設置可能箇所の検討など）、②河川緑化対策（管理用通路への植樹の推進など）、③生態系に配慮した河川施設の検討（落差工など）、④芝中調節池の将来整備(案)の検討、⑤川を見て知り、学ぶための現地調査の実施（調査図への記載など）、⑥住民へのPR活動（河川整備や流連の活動など）です。
- したがって、水量の確保等をテーマとする水循環分科会、河川緑化や生態系に配慮した河川施設の検討と言うことで河川環境分科会があります。第4期ではまだまだ目的が達成していない記述がありましたので、第5期でも継続したら如何かなという提案です。
- 都民委員 先ほど〇〇委員がお話していたことは河川環境にほぼ入るのかなと思います。工事も水循環でなく河川環境に入るのかなと思います。
- 座長 大きく分けるとそういうことになります。それぞれの分科会に治水が入ってき

ますし、第4期で芝中調節池について提案されている貯留施設は水量の話に関係してくるなど相互に関係してくるので、ここでは2つの分科会に分けてみたらどうかと思います。資料6のアンケートの結果で分けさせていただいた項目でみると、治水は両方に係ります。環境の項目で、水量は水循環、その他は河川環境に関係する項目となり、2つの分科会で進めてみたら如何でしょうか。相互に係わる事項についてはそれぞれで議論したらどうでしょうか。事務局からの資料提供はそれぞれに行います。

○団体委員 第4期になって初めて分科会ができ、実際に行動に移せたのは後期の1年度でした。それまではここで話し合っ、帰ってしまい、何の成果も得られなかった。第4期で水循環分科会、河川環境分科会ができ、その中で、植樹、マップ作成などの成果ができた。これらは河川環境分科会だけでしたのではなく、実際に実施する時は全体で行ってきた。各分科会で議論し、大きな問題が出たら全体で検討する様なシステムにしていだければと思います。

○団体委員 ○○委員のご意見に賛成です。2つの分科会に分けても総合治水という観点から空堀川をどのような全体像にしていくか考えていく。全体会と2つの分科会で行っていく際に総合治水の観点で空堀川の全体像をまとめていただきたい。

個別的には工事の進められている所は2つの分科会とは別の懇談会で検討できれば、私としてはありがたいです。

○団体委員 あれだけ大きな工事をしているのに、地元の懇談会は立ち上がっていないのですか。

○団体委員 残念ながら立ち上がっていません。

○都民委員 流連に入って感じたことですが、河川法で住民の意見を聞くことになって、住民の意見を聞くのは流連なのか、流連で意見を言える立場なのかはつきりしない。住民というところの地域の人に意見を聞かなければならないが、希望を出して流連のメンバーになった人に意見を聞くことにより住民に意見を聞いたことになるのか、あやふやである。また、実際に工事をするになると地域の人に影響が大きいので、個別に地域の人にこういう工事をするこの説明が行われるが、それと流連との関係がわからない。河川整備を進めるに当たって、住民の意見を聞くということと流連の位置づけの関係図、組織図等で整理して示して欲しい。

粘土張りをして、川に水を流して欲しいということは我々や地域の人はその思っている。それについては予算がかかりますから、予算をかけてもらうには、この流連で水循環と環境の2つだけで十分に行えるのかどうか、予算を取って欲しいということをして工事第二課に言って終わりになってしまいます。都庁に行ってお願いすることもしなければならぬのか、何か見えない部分があってわかりづらいです。

○都民委員 清瀬橋付近で工事を行っている。その工事も少し行ってしばらく止まり、今は大々的にやっている。この前行った時には看板も設置されていた。そこに魚道を作りますと書いてあった。以前、代田団地の下流の所に魚道を作って欲しいという話があった時には、予算がないから今はできないということであった。意見として出ているので考えるということらしいのです。私は自然保護レンジャーをしているので、散策している人にこれはどうなっているのとか、釣り人に折角来たのに上流から泥水が流れて来て、何をやっているのかななどの話を色々の所で聞きます。工事が何時から何時まで、何処で行うのか、予定があるのならば情報を流して欲しいと事務所に連絡をしました。その時、直ぐにわからないので工事課に話をしてできるかどうか連絡します、で終わってしまった。その後何の連絡もない。

今、意見が出ているように、流連は意見を上げる場なのか、情報を開示する場なのか、問題が合った場合どこに言うのかななどを整理して欲しい。

アユは、遡上してくるアユの他に埼玉県側でアユを年1回放流しているらしい。何の業者かわからないが、投網でたくさん捕獲している。そういうことを何処に伝えたらいいのかわからない。流連に属して、月1回の会で意見を言うのか、途中で連絡するのか、聞きたいことはどうしたらいいのか、もう少しわかりやすくして頂くとありがたい。

○座長 第1回の時も同様な意見を頂いていますので、事務局の方からできるだけ、工事等の情報をお伝えできるようにします。流連だけが意見を言う場ではないので、問題があったら逐次北北建や市の方に上げて下さい。

分科会の話に戻します。〇〇委員や〇〇委員から意見が出ましたように、分科会は分科会としてとりあえずという言い方はおかしいのですが、分科会で大きく分けた項目について検討していく。分科会で何を今年度やっていくのか決めていただいても良いと思います。大きく分けた水循環とか維持用水とか通常の水量を確保するにはどういう方策があるかなどを検討する水循環分科会と緑の関係とか河川の環境を検討する河川環境分科会の2つの分科会で行い、枝葉が出てきて治水について行ってもいいと思います。全体で行う時期が来たら全体で行う。そのように進めたいと思いますが、よろしいですか。

○団体委員 分科会はそういう形で進めるのでやむを得ないと思います。

それとは別に工事が進められている場所では、個別工事の懇談会を立ち上げていただきたい。かつては東大和でも今工事が行われている上流の下砂公園は都市計画決定されており、工事着手に先立って懇談会を設けた経緯がある。ところが今回は工事に関する懇談会が市内では何処にも立ち上がっていない。是非立ち上げていただきたいという話はしたが、いっこうにその気配はない。これは何故か伺いたい気持ちもあるが聞いてもしかたがないので、是非懇談会を立ち上げて欲しいという希望を持っています。

- 座長 その件については、別途検討させて下さい。
- 団体委員 是非、検討して下さい。
- 座長 2つの分科会することで、柔軟にやっていただければと思います。分科会で何を検討していくかについては、各々の分科会に分かれて決めて下さい。大人数なのでなかなかまとまらないと思いますので2つに分けたいと思います。名称もこの2つでよろしいですか。4期で残っている事項もあるので、コロコロ変えるのも何でしょうし、これまでの実績を踏まえ積み上げていけば先に議論が進むと思います。
- それでは、水循環分科会と河川環境分科会の2つの分科会で進めて下さい。
- 都民委員 補足的な質問ですが、柳瀬川は、合流点より下流は埼玉県と東京都があり、工事を行うとすると埼玉県側の住民と東京都側の住民に意見を聞かなければならないので合同の懇談会を行ってきた。上流は埼玉県の工事となるが、東京都の住民の意見を聞いてくれるのかどうか、都から埼玉県に働きかけて頂けるのでしょうか。
- 事務局 これから柳瀬川は東京都が施工する区間が終わった後に埼玉県が工事をするのですが、埼玉県全体では河川も多く、今すぐ工事をするようなことを言っていたので、時間がまだかかると思います。
- 都民委員 わかりました。当分は分科会では東京都側のことを考えます。
- 座長 そうして下さい。埼玉県では他に水害などが起きている箇所多くあり、柳瀬川については治水上それほど問題がない河川と認識を埼玉県は持っています。重点的に整備をするところではないのでまだ時間がかかると思います。
- 都民委員 前日も今回も同じ様なパターンで終わるような気がします。難しいことだろうと思いますが、例えば今年度、水循環分科会にどの位かの目標を立て、それに対して我々が何をするかというように、何か目標がないとステップアップしていかないのではないかと思います。分科会の今年の目標の設定をして欲しい。
- 団体委員 目標を設定して、将来像をみんなで作っていこうという提案を水循環分科会の中でして、そのために川をここからここまで見る。河床張りの話がでていましたが、河床張りをするにはある程度河床を掘らなくてはならない。河床を掘るのが良いのかどうなのか、私は場所によっては洗掘により土砂が流れているから河床を掘らなくてもよいと思っている。そういったことを川に下りて見て、どのくらい掘られているとか、護岸状況や湧水箇所など個別に上げてもらって、みんなでテーマを出し合い、将来の空堀川を自分が望む全体像をパースに描いてみよう

思っている。

- 都民委員 絵を描くのはいいが、この位の予算があるからこういうことができるとしないと絵に描いた餅になると思う。
- 座長 行政側も委員として分科会に出ますので、議論する際に、今だったらこれくらいできるとかは話せると思う。
- 都民委員 この会で決まったことは意見として言えるので、とりまとめ役にこれまで決まったことを良くチェックしていただき、働きかけてもらいたい。
- 団体委員 協力していただけるように努力します。
- 都民委員 最近、流行の事業仕分けで、これならこうしようと言われるようにしないとせっかくやった意味がないと思います。
- 団体委員 皆さんが分科会に参加していただき、今年はこういうことをしていこうと決めて、楽しいことができればいいなと思っています。
- 都民委員 河床張りことが何回も出てきているが空回りしていると思います。行政側から流連で手の届く範囲で議題を提案して欲しい。
- 座長 即答はできませんが・・・・・・・・
- 団体委員 昨年度、地下水を測定する柵を作っていただきました。河床までの地下水位の高さを一番知りたい。雨量のある時や湧水時に測定された結果等の情報は公表していただけるのでしょうか。
- 座長 それはできると思います。
- 団体委員 よろしく願いいたします。流域の4市では東京都の指導もあって、開発する時には雨水を地下浸透させており、その成果が今、清瀬の下流では湧水、伏流水かもしれないが、出てきているのかなと思います。地下水が河床の何処までできているのか一番知りたいです。
- 座長 分科会のメンバーについてはどのようにしますか。
- 事務局 今の議論を踏まえて、分科会構成委員（案）の表で空欄になっている方がどちらかの分科会を希望しているかをお伺いして、2つの分科会に分かれて意見交換していただく手順です。

○座長 資料8の分科会構成委員(案)の表により各分科会のメンバーを確認します。
○○委員は河川環境でよろしいですか。

○団体委員 よろしいです。

○座長 ○○委員は、

○都民委員 水循環です。

○都民委員 水循環です。

○都民委員 水循環です。

○都民委員 河川環境です。

○都民委員 河川環境です。

○都民委員 河川環境です。

○団体委員 河川環境です。

○団体委員 水循環です。

○都民委員 水循環です。

○都民委員 水循環です。

○都民委員 水循環です。

○団体委員 河川環境です。

○都民委員 河川環境です。

○都民委員 河川環境です。

○都民委員 水循環です。

○都民委員 河川環境です。

○座長 私、適宜両方に入らせていただきます。

○事務局 概ね同人数ですのでこれで分科会お願いします。大分時間が経過していますので、机を配置している間、休憩とします。分科会では、まとめ役と書記を決めていただき、30分ほどテーマ等について議論してください。その後、全体会で検討結果等をまとめ役より報告して下さい。よろしくをお願いします。

(その他)

○団体委員 「くらしの中の水辺」というチラシですが、これは東大和市中央公民館の環境講座です。5回シリーズで既に始まっております。今日ご紹介したいのは、4回の12月11日金曜日の講座です。公開講座ということで、九州大学大学院工学研究院の島谷先生に御出願っています。平日金曜日ですが、是非皆様方ご都合がよろしければご参加願えればありがたいです。講演は午後3時から行いますが、その前に見学会がございますので、もし見学会に参加できる方は、午後1時30分に東大和市中央公民館に集合していただければと思います。どうぞよろしくお

願いいたします。

○座長 それでは休憩に入ります。

(各分科会での検討)

(分科会の検討結果の報告)

座長 分科会に分かれていただき、まとめ役の選任、活動のテーマ等について話していただきました。水循環分科会から報告して下さい。

○団体委員 水循環分科会から報告させていただきます。

まとめ役は私、〇〇が選ばれました。書記は〇〇委員が選ばれました。

テーマは、①現在ある調整池に雨が降ったら水を溜めておいて、徐々に水を流していくなどの調節池の利用、運用方法について、②柳瀬川の下流から50mm対応で河床を掘削し、河床張りをするが、下流からでなく洗掘されているような箇所から河床張りをしてもいいのではないかなどの河床張りについて、③雨水をゆっくり流す方法について、④河床に窪地を作り、水涸れしないような方法について、⑤空堀川は元々水が少ないから、人工的に水を持ってきたらどうかなどがありました。次回からこれらについて話し合っていきたいと思っています。

なお、検討する上で、「地下水のデータ」が必要であるから公表して欲しいです。

次回分科会の予定は、第1候補は、1月27日(水)14:00~16:00、第2候補は、1月25日(月)14:00~16:00として、事務局と調整する。以上です。

○座長 ありがとうございました。引き続き河川環境分科会の方から願いいたします。

○団体委員 河川環境分科会は昨年第4期とのつながりがあるので、まとめ役は、私、〇〇がやらせていただきます。書記は今回は〇〇委員にやっていただきました。

昨年の成果として、清瀬に来ると4つの看板があります。清瀬川は空堀川と全く環境が違いアユの遡上やオイカワなど魚種が多いです。これらの魚をきちんと守っていく。それがつながっていく川にしたい。4年間かけて看板の予算を立てて頂いた。こちらで書いていった看板の文言は、これは絶対かけませんということで、予算だけはとって置いていただいた。川には漁業権がないのですが、投網を打たないで下さい。コロガシ釣りはしないで下さい。バーベキューの直火はやめて下さい。要するにそういうことを書いていただいて、責任は初めて「川づくり清瀬の会」とすることを提案しました。看板の責任の所在を明らかにして看板を作っていただきました。これは4期の流連の成果だと思います。そして、東大和市と東村山市に植樹をさせていただきました。それからここに張られているマ

ップも大きな成果だと思えます。

今年は何をするのかというと、皆さんに話を伺いました。

テーマは、①芝中調節池について、清瀬にあるせせらぎ公園や金山調節池のような水と緑の環境に配慮した場所にして欲しいという意見、②生き物がつながるということで落差工の改善について、③これから工事が始まる東村山、東大和では工事にあわせた管理用通路への植栽。それは何でも植えればよいのでなく、土地にあった景観に配慮した木を植えて下さいということです。④隣接する私有地の大きな木は切らないように、あるいは強い剪定をしないように、樹形を残してもらうのをこの会でできないだろうか、⑤一年草のオオブタクサは種をこぼさないように早め早めに退治すれば何とか少なくなると思う。あまりにも帰化植物が多くなってきています。イネ科のセイバンモロコシなどは種、根っこで増えるのでどうしたら河川在来の植生を保つために外来種の植物を何とかすることはできないか。これは河川環境分科会だけでなく全体で考えていくことかと思えます。⑥河川全体で一斉に行うクリーンアップ作戦を年3日位設けられないか、行政の皆さんとこの会の皆さん、後につながる団体の皆さんの話し合いで何とか年3回あるいは年4回の空堀川の一斉の清掃ができないものだろうかということまで今回意見としてあがりました。

次回についてはまだ決まっておりません。

○座長 ありがとうございました。

○団体委員 先ほど言い漏らしてしまったので補足させて下さい。水循環分科会としては、みんなで議論して理想的な空堀川の姿を描いてみたい。そういうことが目標にあって、具体的には目標を設定して成果を上げるようにしよう。ということが決まりました。以上です。

○座長 次回の開催については、水循環分科会は1月27日（水）14:00～16:00ということですが。河川環境分科会もここで日程を決めましょう。

○団体委員 はい分かりました。2月3日（水）14:00～16:00でお願いします。

○座長 まとめ役の方は、こんな資料と言うものがあれば、言っていただければ用意できるものは用意します。

○団体委員 今日の議事録は事務局で作成していただけるのですか。

○事務局 議事録は事務局で作成します。

○都民委員 議事録に書いて欲しいのですが、前回水循環分科会にいた○○委員が、今回は河川環境分科会に行ってしまった。貴重な財産を失った気がする。そう簡単に向

こうに行くわけにはいかないのではないかとということで、分科会は兼務でも良いと思うのですがいかがですか。

○事務局 自由に別の分科会に出席することはかまいません。

○座長 では、次回の開催については、水循環分科会は1月27日(水)14:00~16:00、河川環境分科会は2月3日(水)14:00~16:00とします。御都合がつけば自由に他の分科会にも出席して下さい。

次に、資料9今後の活動の予定について事務局より説明して下さい。

○事務局 資料9を見て下さい。今後の活動の予定案ということで、事務局で作成しました。分科会、全体会をこのようなペースで行って、概ね2年間の平成23年5月で第5期が完了します。あくまでこのような予定ですが、各分科会の議論によってはもっと密にやる場合もあろうかと思えます。今後の全体の予定として俯瞰していただければと思います。以上でございます。

○座長 今後の活動の予定案ということで、特にこれに縛られるというわけではないのですが何かご意見等がありますか。よろしいですか。

最後に次第のその他になりますが、資料10柳瀬川落差工の改良については、私から説明します。

柳瀬川金山調節池の下の所の落差工の話です。今年、アユを放流したところ、落差工の下まではアユがたくさんきているが、落差工を上げないアユがたくさんいることが今年の春に分かりました。北北建として落差工をアユが上りやすく改良したいと考えています。今現在検討中です。工事をやるとすると水の少ない時期に行うことになる。現在は検討中ですということをご報告いたします。

○都民委員 来年春頃までに改良できませんか

○座長 それも含めて、どうせやるのでしたら1~3月の水の少ない時期になると思います。

○都民委員 前はアユが溜まっていて、業者に捕られてしまうということで、有志の方が市に連絡し、網を持ってきてアユを上に乗せた。当然早く改良して欲しいという意見が出ている。時期を言っていいただければ、釣りをやっている人などアユを上げるのに協力してもらえます。

○座長 まだ色々あるので決まっています。

○都民委員 あるかもしれないということで伝えときます。

- 都民委員 今、アユを放流したとのことですが、事実ですか。
- 団体委員 松戸橋で6000匹が放流されました。
- 団体委員 南部漁業組合で行ってます。
- 都民委員 それが事実なら、もし放流された魚であれば漁業権が発生してくる。
- 都民委員 柳瀬川の清柳橋から清瀬橋までの東京都の区間では漁業権がない。その他は埼玉県側で漁業権がある。東京都側は漁業権がないので投網をしても罰せられない。
- 団体委員 東京都側でも漁業権等を設けてモラルのある釣りをして欲しいと、北北建に相談しました。それは、北北建では対応できないとのことでした。
- 座長 それは産業労働局です。
時間になりましたので、本日は終了ということで、何か御意見等ございましたら事務局にご連絡下さい。本日はどうもありがとうございました。
- 事務局 それでは第4回流域連絡会は閉会します。